

動物看護基礎実習

(授業概要)

動物と関わる上で日常的な健康管理や予防について学び、実践できるようにする

科	生命科学科	教員	田中
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

1 学期

動物に負担がかからないような基本的な保定ができるようにする。またバイタルサインを理解し、いち早く動物の異常に気付くことができる。

2 学期

ワクチン、フィラリア予防、ノミダニ予防について理解し、説明できるようにする。
また基本的な健康管理だけでなく、エキゾチックの健康管理、保定もできるようにする。

授業計画

- 1回 自己紹介、授業について、実習室での注意点
- 2回 動物への接し方、保定について
- 3回 犬の保定（立位、犬座）
- 4回 犬の保定（伏臥位、横臥位）
- 5回 猫の保定
- 6回 実習（犬の保定）
- 7回 バイタルサイン（体重、体温）
- 8回 バイタルサイン（脈拍、呼吸、CRT）
- 9回 バイタルサインの注意点
- 10回 実習（猫の保定）
- 11回 健康チェック①

- 12回 健康チェック②
- 13回 健康チェック③
- 14回 実習（バイタルサイン、健康チェック）
- 15回 フィラリア予防①
- 16回 フィラリア予防②

- 17回 ノミダニ予防①
- 18回 前期試験
- 19回 試験返却
- 20回 ノミダニ予防②
- 21回 狂犬病、混合ワクチン
- 22回 混合ワクチンで防げる病気（犬）
- 23回 混合ワクチンで防げる病気（猫）
- 24回 避妊手術、去勢手術について
- 25回 避妊手術で予防できる病気①
- 26回 去勢手術で予防できる病気②
- 27回 肥満の予防①
- 28回 肥満の予防②
- 29回 エキゾチック①
- 30回 エキゾチック②
- 31回 エキゾチック③
- 32回 後期復習
- 33回 後期試験
- 34回 試験返却
- 35回 エキゾチック④

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、実習

きょうざい
教材

プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん じゅぎょうたいど
期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

授業用プリントを各自纏めなおす。

じつむけいけん じゅぎょうかちく かんけい
実務経験と授業科目の関係

コンピューター実習

(授業概要)

本講義では、Microsoft Word を用いたビジネス文書の作成、Excel を用いた表計算とグラフ作成、PowerPoint を用いた基本的なプレゼンテーションスライドの作成が行えるようになることを目的とする。

科	生命科学科, 動物看護師学科	教員	近澤優子
コース	DGT, SML, TEP, WLD, VN1	教員の実務経験	×
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

1 学期

タッチタイピングが行える。

Microsoft Word を使用して、基本的なビジネス文書の作成が行える。

2 学期

Microsoft Excel を使用して、数式・関数を用いた計算と、グラフの作成が行える。

Microsoft PowerPoint を使用して、基本的なプレゼンテーションスライドの作成が行える。

授業計画

- 1回 授業概要
- 2回 タイピング基礎
- 3回 文字の入力と変換
- 4回 Word 基本操作, 画面構成
- 5回 ページ設定, 文章入力, 文字の編集
- 6回 フォントの設定, 段落設定, 箇条書き
- 7回 課題 (1)
- 8回 グラフィック機能 (1); ワードアート, 画像
- 9回 グラフィック機能 (2); 文字の効果, ページ罫線
- 10回 グラフィック機能 (3); 図形, SmartArt
- 11回 表の作成と編集 (1)
- 12回 表の作成と編集 (2)
- 13回 表の作成と編集 (3)
- 14回 課題 (2)
- 15回 前期復習
- 16回 Word 確認テスト
- 17回 Word 確認テスト振り返り (前期最終)

- 18回 後期授業概要, Excel 基本操作, 画面構成 (後期初回)
- 19回 データの入力と編集, オートフィル
- 20回 数式の入力
- 21回 関数 (1); SUM, AVERAGE
- 22回 関数 (2); COUNT, MAX, MIN
- 23回 絶対参照と相対参照
- 24回 表の書式設定, 表示形式
- 25回 表の編集
- 26回 グラフ (1); 円グラフ
- 27回 グラフ (2); 棒グラフ
- 28回 Excel 復習
- 29回 Excel 確認テスト
- 30回 Excel 確認テスト振り返り
- 31回 PowerPoint 基本操作, 画面構成, 新規プレゼンテーションの作成
- 32回 テーマ設定, テキストの入力と編集, 箇条書き, フォントの設定
- 33回 図形, 画像, アニメーション
- 34回 個人課題 (1)
- 35回 個人課題 (2), 後期振り返り (後期最終)

授業の方法

コンピューター演習

教材

よくわかる Word2016 & Excel2016, FOM 出版

評価の方法

授業中の取り組み態度 10%, 課題提出 40%, テスト 50%

授業外での学習方法

予習 1h, 復習 1h

実務経験と授業科目の関係

トレーニング概論・実習Ⅰ

(授業概要)

犬のトレーニングに必要な基礎知識とトレーニング方法を座学と実習で学ぶ

科	生命科学科	教員	中村・田村
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	70時間

目標

1学期

犬の適切な世話の方法と学習方法を学ぶ

2学期

人と犬との生活について学ぶ

授業計画

- 1回 実習ガイダンス
- 2回 犬との顔合わせ
- 3回 犬とは
- 4回 犬の生得的本能
- 5回 犬の気質と素因
- 6回 脳の働きと行動の関係
- 7回 仔犬の成長過程①
- 8回 仔犬の成長過程②
- 9回 犬の社会的階級について
- 10回 犬のコミュニケーションについて①
- 11回 犬のコミュニケーションについて②
- 12回 前期期末試験（筆記試験・実技試験）
- 13回 前期期末試験（実技試験）
- 14回 前期のまとめ振り返り
- 15回 前期の復習
- 16回 犬との生活①
- 17回 犬との生活②

- 18回 トイレトレーニング
- 19回 ハウストレーニング
- 20回 LEADプログラムとは①
- 21回 LEADプログラムとは②
- 22回 飼い主との関係を築くには①
- 23回 飼い主との関係を築くには②
- 24回 子供と犬の関わり
- 25回 多頭飼育について
- 26回 障害のある犬のトレーニング①
- 27回 障害のあるトレーニング②
- 28回 暴力の連鎖とは
- 29回 犬との生活のまとめ①
- 30回 犬との生活のまとめ②
- 31回 犬との生活のまとめ③
- 32回 後期期末試験（筆記試験・実技試験）
- 33回 後期期末試験（実技試験）
- 34回 1年間のまとめ
- 35回 トレーニングゲーム

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

実習と座学

きょうざい
教材

授業テキスト（配布）

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%（筆記試験・実技試験）、じゅぎょうたいど 授業態度・提出物 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

なし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

家畜学 I

(授業概要)

人間生活を支えている家畜の役割と動向、家畜の生理生態、飼料の生産と利用を学ぶ

科	生命科学科	教員	金田
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	35

目標

1 学期

家畜動物とはどのように人とつながっているのか、社会的役割はどのようにになっているのかを理解する。
家畜動物であるウシおよびブタについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

2 学期

家畜動物であるブタおよびウマ、ニワトリについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

授業計画

- 1回 家畜動物の定義
- 2回 ウシの概要について①
- 3回 ウシの概要について②、ウシの体の構造について①
- 4回 ウシの体の構造について②
- 5回 ウシの体の構造について③
- 6回 ウシの品種について、ウシの飼育について①
- 7回 ウシの飼育について②
- 8回 ウシの飼育について③
- 9回 ウシの疾患について①
- 10回 ウシの疾病について②
- 11回 ブタの概要について①
- 12回 ブタの体の構造について①
- 13回 ブタの体の構造について②
- 14回 ブタの品種について、ブタの飼育について①
- 15回 ブタの飼育について②

- 16回 試験対策
- 17回 (前期試験期間)
- 18回 (前期試験期間)
- 19回 ブタの飼育について③
- 20回 ブタの疾病について①
- 21回 ブタの疾病について②
- 22回 ウマの概要について
- 23回 ウマの体の構造について①
- 24回 ウマの体の構造について②
- 25回 ウマの品種について①
- 26回 ウマの品種について②
- 27回 ウマの飼育について①
- 28回 ウマの飼育について②
- 29回 ウマの飼育について③
- 30回 ウマの疾病について①
- 31回 ウマの疾病について②
- 32回 ニワトリの概要について①
- 33回 ニワトリの概要について②
- 34回 ニワトリの概要について③
- 35回 (後期試験期間)

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義

きょうざい
教材

家畜動物の基礎（教科書）、自作プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験 80%、平常点 20% (しゅつせきりつ 出席率、じゅぎょうたいど 授業態度等)

じゅぎょうがいのがくしゅうほうほう
授業外での学習方法

なし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

アニマルアクティビティ

(授業概要)

アニマルセラピーやアニマルアクティビティの現状とセラピードッグの育成に関する適性飼育と必要な条件を学び、ボランティアや教育、介護などで活躍できる人材の育成を行う。

科	生命科学科	教員	荻野 直美
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	35

目標

1学期

アニマルセラピーを通じて、ペット動物に対する意識の向上

動物介在活動の普及・ボランティアの育成

2学期

動物介在活動の実践と動物を飼い暮らすことの大切さと難しさを伝えられるようになる。

(動物の適性飼育の重要性)

授業計画

- 1回 自己紹介、アニマルセラピーとは
- 2回 AAA・AAT・AAE 概要
- 3回 AAT を行うためには
- 4回 動物がもたらす効果
- 5回 AAT を行う側からの分類①
- 6回 AAT を行う側からの分類②
- 7回 AAT を受ける側からの分類
- 8回 AAT を行う上での動物のストレス①
- 9回 AAT を行う上での動物のストレス②
- 10回 動物の適性評価①
- 11回 動物の適性評価②
- 12回 活動中のストレス要因
- 13回 患者に合った動物を選ぶ
- 14回 AAT の適応に注意が必要な場合
- 15回 動物への不適切な扱い
- 16回 捨てず・増やさず・飼うなら一生①
- 17回 捨てず・増やさず・飼うなら一生②
- 18回 テスト (筆記)

- 19回 テスト（解答）前期まとめ
- 20回 グループワーク
- 21回 活動に参加する動物のチェック
- 22回 活動に際しての注意点
- 23回 活動当日の注意点 デモンストレーション
- 24回 ボランティアの責任
- 25回 施設と設定
- 26回 動物を飼う「食事編」
- 27回 動物を飼う「環境編」
- 28回 動物を飼う「体の手入れ編」
- 29回 動物を飼う「運動編」
- 30回 動物を飼う「予防編」
- 31回 動物を飼う「トレーニング編」
- 32回 動物を飼う「愛情・絆編」
- 33回 後期ノートチェック、テスト範囲まとめ
- 34回 テスト（筆記）
- 35回 テスト（解答）

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、演習、グループワーク

きょうざい
教材

ノートプリント配布 1～23、その他環境省の配布ポスター

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

なし

けいけん じゅぎょうかもく かんけい
経験と授業科目の関係

あり

コンパニオンキャット I

(授業概要)

ペットに関わる職業（トリマー、ペットショップ、動物保護、動物看護師）を目指すうえで知っておくべき猫の基礎知識について、種類や歴史、身体の特徴、繁殖、病気を中心に全般的な知識を習得する。

科	生命科学科	教員	上田阿由美
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35時間

目標

1 学期

猫についての基本的な知識を知るとともに、猫と犬の違いを学ぶ。また、猫の行動学も学び、理解をし、説明できるようになる。

2 学期

猫種、仔猫の健康チェック方法、ケアの仕方、伝染病などの猫の病気を学び、それらを人に伝えられるようになる。

授業計画

前期

- 1回 オリエンテーション（授業のルール・評価の出し方。）上田の自己紹介
- 2回 プロのMIXと純血種の定義
- 3回 LH/SHの性格。遺伝等の違い
- 4回 アメリカンショートヘアについて
- 5回 MALE/FEMALEの性格等の違い
- 6回 猫と犬の違い①（習性・体型・感触）
- 7回 猫と犬の違い②（運動感覚・体臭・排泄物）
- 8回 猫と犬の違い③（種類・腸管・歯・毛色）
- 9回 猫と犬の違い④（繁殖機能）
- 10回 行動学①（舌・爪・尾）
- 11回 行動学②（髭・鼻・目・耳）
- 12回 行動学③（内臓・皮膚・体感・マタタビ）
- 13回 CFA公認猫種のDVD①
- 14回 CFA公認猫種のDVD②
- 15回 猫のタイプによる分類
- 16回 猫のタイプによる分類
- 17回 前期末テスト
- 18回 前期末テスト答え合わせ&不理解部分の説明

後期

- 19回 子猫の健康チェック①
- 20回 子猫の健康チェック②
- 21回 子猫の健康チェック③
- 22回 毎日のケア①
- 23回 毎日のケア②
- 24回 毎日のケア③
- 25回 ワクチンについて①
- 26回 ワクチンについて②
- 27回 ワクチンについて③
- 28回 猫の病気①
- 29回 猫の病気②
- 30回 猫の病気③
- 31回 猫の血液型①
- 32回 猫の血液型②
- 33回 猫の血液型③（FNI）
- 34回 後期末テスト
- 35回 後期末テストの答え合わせ&不理解部分の説明

授業の方法

講義

教材

CFA猫種 スタンダード訳本

評価の方法

期末試験80%、出席率 20%

授業外での学習方法

健康チェックやケアを実際に猫を扱いながら行う

実務経験と授業科目の関係

あり

資格対策

(授業概要、目的)

サービス接遇検定3級及び、愛玩動物飼養管理士2級の認定試験で合格する事。

試験に合格し資格を取得することで就職活動や就職後の業務に活用できる。

サービス接遇検定⇒6月上旬に認定試験開催。試験範囲(サービススタッフの資質/専門知識/一般知識/対人技能/実務技能)の対策授業を行う。

愛玩動物飼養管理士⇒11月下旬に認定試験開催。スクーリング/マークシート課題の実施と試験範囲の対策授業を行う。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	DOG、SML、TEP、VN1	教員の実務経験	×
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

前期

- ・サービス接遇検定3級取得を目指す。
- ・基本的なサービス接遇(相手に満足を提供すること)を身につけるために必要な知識と技能を身につける。

後期

- ・愛玩動物飼養管理士2級取得を目指す。
- ・スクーリング/マークシートの実施を行い試験範囲の内容を把握する。問題の解説。

授業計画

前期 サービス接遇検定

- 1回 オリエンテーション(受験申込書記入/試験概要の説明)
- 2回 サービススタッフの資質について
- 3回 専門知識
- 4回 一般知識
- 5回 対人技能
- 7回 実務技能
- 8回 模擬試験
- 9回 オリエンテーション(愛玩動物飼養管理士教科書配布/課題の説明)
- 10回 スクーリング実施
- 11回 スクーリング実施
- 12回 マークシート課題報告問題実施

後期 愛玩動物飼養管理士

- 13回 マークシート課題報告問題実施
- 14回 マークシート課題報告問題実施/前期期末試験対策

- 15回 前期期末試験の実施
- 16回 試験返却、解説
- 17回 愛玩動物飼養管理士試験対策①
- 18回 愛玩動物飼養管理士試験対策②
- 19回 愛玩動物飼養管理士試験対策③
- 20回 愛玩動物飼養管理士試験対策④
- 21回 愛玩動物飼養管理士試験対策⑤
- 22回 愛玩動物飼養管理士試験対策⑥
- 23回 愛玩動物飼養管理士試験対策⑦
- 24回 愛玩動物飼養管理士試験対策⑧
- 25回 愛玩動物飼養管理士試験対策⑨
- 26回 愛玩動物飼養管理士試験対策⑩
- 27回 SPI 対策①
- 28回 SPI 対策②
- 29回 SPI 対策③
- 30回 SPI 対策④
- 31回 SPI 対策⑤
- 32回 SPI 対策⑥
- 33回 SPI 対策⑦
- 34回 後期期末試験実施
- 35回 試験返却、解説

授業の方法

対策資料及び教本を用いた授業の実施

教材

サービス接遇検定実問題集(3級)/愛玩動物飼養管理士2級教本2冊/スクーリング資料/ペットの飼養管理

評価の方法

期末試験80%/授業態度20%

授業外での学習方法

問題集/スクーリング/マークシート/配布プリントの復習

実務経験と授業科目の関係

○

エキゾチックアニマル I

(授業概要)

エキゾチックアニマルを扱う仕事（動物園、水族館、ペットショップ等）をする上で必要な知識を身につけるために、主要4種類（ハムスター、モルモット、ウサギ、フェレット）のペット動物の分類や生体・生態・特性を理解し、小動物を正しく扱えるようになる。

科	生命科学科	教員	橋本
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35時間

目標

1学期

エキゾチックの概要およびペットや飼育動物の定義を習得する。ハムスターの生体や歴史、飼育時の注意点、病気などを理解し説明できるようになる。また、それらを通し飼育動物の基礎を固める。

2学期

ウサギ・モルモット・フェレットの生体や歴史、飼育時の注意点、病気や症状などを理解し説明できるようになる。また、それらを通し飼育動物の基礎を固める。

授業計画

- 1回 エキゾチックアニマルとは
- 2回 ペットの適性について
- 3回 ハムスターについて（分類、歴史）
- 4回 ハムスターについて（体の特徴）
- 5回 ハムスターについて（体の特徴）
- 6回 ハムスターについて（生理的な特徴）
- 7回 ハムスターについて（飼育方法）
- 8回 ハムスターについて（繁殖）
- 9回 ハムスターについて（病気）
- 10回 ハムスターについて（病気）
- 11回 ウサギについて（分類・歴史）
- 12回 ウサギについて（体の特徴）
- 13回 ウサギについて（体の特徴）
- 14回 ウサギについて（生理的な特徴）
- 15回 前期試験
- 16回 前期試験返し・解答
- 17回 ウサギについて（飼育方法）
- 18回 ウサギについて（繁殖）

- 19回 ウサギについて（病気）
- 20回 ウサギについて（病気）
- 21回 モルモットについて（分類・歴史）
- 22回 モルモットについて（体の特徴）
- 23回 モルモットについて（体の特徴）
- 24回 モルモットについて（生理的な特徴）
- 25回 モルモットについて（飼育方法・繁殖）
- 26回 モルモットについて（繁殖）
- 27回 モルモットについて（病気）
- 28回 モルモットについて（病気）
- 29回 フェレットについて（分類・歴史）
- 30回 フェレットについて（体の特徴）
- 31回 フェレットについて（生理的な特徴）
- 32回 フェレットについて（飼育方法）
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返し・解答
- 35回 フェレットについて（病気）

授業の方法

講義

教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル

評価の方法

期末試験 80%、平常点 20%（出席率、授業態度等）

授業外での学習方法

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自まとめなおし、随時チェックする。

実務経験と授業科目の関係

あり

ビジネスマナー/HR

(授業概要)

社会人として基本的に必要なビジネスマナーを理解、実践ができるようになる事を目的とし、人間関係や信頼関係を構築できるようになる。

ホームルームとの兼ね合いのため、授業内容を面談や行事の準備に活用する場合があります。

科	生命科学科	教員	山内
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	×
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

1 学期

就職活動やインターンシップでの重要となる書類である履歴書とお礼状の書き方やマナーを知り、正しく書けるようになる。

スーツの着方や敬語(丁寧、謙譲語、尊敬語)理解し着こなせる・話せるようになる。

2 学期

電話対応の基本の理解、ビジネス文書のシーンに合った使い分けが出来るようになる。

封筒の基本と宛名の書き方に関するマナー理解、食事と飲み会に関するビジネスマナーの理解。

ビジネスで使われる用語の語句と意味を覚え、理解し使えるようになる。

授業計画

1 学期

- 1回 自己紹介(自分の長所、短所、趣味など面接でよく聞かれる項目も入れて発表を行う)
- 2回 学校でのエレベータの使い方、受付の利用の仕方、校舎見学
- 3回 履歴書の書き方①(個人情報の書き方について)
- 4回 履歴書の書き方②(志望動機、セールスポイントなどの自己PRの書き方)
- 5回 履歴書の書き方③(資格、好きな科目などの書き方)
- 6回 お礼状の書き方・実践①
- 7回 お礼状の書き方・実践②
- 8回 お礼状の書き方・実践③
- 9回 封筒の書き方・送り方①
- 10回 封筒の書き方・送り方②
- 11回 ビジネス会話の基本①(敬語について)
- 12回 ビジネス会話の基本②(定番の言い回し、クッション言葉)
- 13回 席次①(上座と下座について)
- 14回 席次②(シチュエーション別の席次、実践)
- 15回 会社での挨拶の仕方、立ち方、お辞儀の基本、椅子の座り方、入退室の基本。

- 16回 試験対策(復習課題)
- 17回 試験
- 18回 試験フィードバック
- 2学期**
- 19回 電話応対
- 20回 ビジネス文書①(紙文書)
- 21回 ビジネス文書②(メール)
- 22回 ビジネス文書③(FAX)
- 23回 リモートワークマナー
- 24回 名刺交換(名刺交換の基本、同時交換、複数交換)①
- 25回 名刺交換(実践)②
- 26回 履歴書・お礼状の復習
- 27回 求人票の見方
- 28回 ビジネス用語について①(基本編)
- 29回 ビジネス用語について②(求人編)
- 30回 ホウレンソウ、5W3Hについて、人間関係のマナー
- 31回 雇用形態について
- 32回 会社での役職の序列と役割について
- 33回 試験対策(復習課題)
- 34回 試験
- 35回 試験フィードバック

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、問題演習、実践

きょうざい
教材

紙媒体の資料の配布

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 80%、じゅぎょうたいど 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

校内やプライベートでも意識して実践をする。

エレベータにて席次を意識して乗る、先生やアルバイト先のスタッフなど常日頃、敬語を意識して話すなど。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

なし

両生爬虫類学 I

(授業概要)

近年様々なエキゾチックアニマルを飼育する方々が増え、それに応じて動物病院やペットショップでも扱う機会が多く、必要な知識を身につけるために、主要な4種類（ヘビ、カメ、トカゲ、トカゲモドキ）の分類や生態・特性を理解し、正しい扱い方を覚える。

科	生命科学科	教員	山内
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

1 学期

両生爬虫類の定義を習得し、ペットとして広く流通する両生爬虫類の特徴を理解する。ヘビ・カメの種類や生態、飼育時の注意点、病気などを理解し説明できるようになる。また、それらを通し動物飼育の基礎を固める。

2 学期

トカゲ・トカゲモドキの種類や生態、飼育時の注意点、病気を理解し説明できるようになる。また、それらを通し動物飼育の基礎を固める。

授業計画

1 学期

- 1回 アイスブレイク
- 2回 両生爬虫類の特徴（分類）
- 3回 両生爬虫類の特徴（体表・骨格）
- 4回 分類別解説：ヘビ（分類・歴史）
- 5回 分類別解説：ヘビ（種類）
- 6回 分類別解説：ヘビ（身体的特徴）
- 7回 分類別解説：ヘビ（生理的特徴）
- 8回 分類別解説：ヘビ（飼育方法）
- 9回 分類別解説：ヘビ（品種）
- 10回 分類別解説：カメ（分類・歴史）
- 11回 分類別解説：カメ（種類）
- 12回 分類別解説：カメ（身体的特徴）
- 13回 分類別解説：カメ（生理的特徴）
- 14回 分類別解説：カメ（飼育方法）
- 15回 分類別解説：カメ（品種）
- 16回 試験対策

17回 前期試験

18回 試験返却

2学期

19回 分類別解説：トカゲ（分類・歴史）

20回 分類別解説：トカゲ（種類）

21回 分類別解説：トカゲ（身体的特徴）

22回 分類別解説：トカゲ（生理的特徴）

23回 分類別解説：トカゲ（飼育方法）

24回 分類別解説：トカゲ（品種）

25回 分類別解説：トカゲモドキ（分類・歴史）

26回 分類別解説：トカゲモドキ（種類）

27回 分類別解説：トカゲモドキ（身体的特徴）

28回 分類別解説：トカゲモドキ（生理的特徴）

29回 分類別解説：トカゲモドキ（飼育方法）

30回 分類別解説：トカゲモドキ（品種）

31回 ヘビ・カメの復習

32回 ペット業界が抱える課題点

33回 試験対策

34回 後期試験

35回 試験返却

授業の方法

座学

教材

ビバリウムガイド 101号

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

生体管理実習での生体管理

実務経験と授業科目の関係

あり

人間形成概論

(授業概要)

人間関係に関する基礎知識を持ち、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、生き物を扱う職務を遂行する社会人として、良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。心身ともに健康な生活を送るために必要なヘルスリテラシーを身につける。

科	生命科学科、動物看護学科	教員	校長：中野美和子
コース	DGT, TEP, SML, AQR, WLD, VN1	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	35単位

目標

1 学期

人間の身体と心の関係、人間関係の基本である自己概念について考える。次いで、対人認知に関わる理論と実際を学び、考える。

2 学期

基礎的なコミュニケーションの概略を学び、次いで集団での行動、心理について学び、集団の一員として働き方、コーチングを含めた成人教育について学び、考える。

健康についてのリテラシー、生活習慣病の予防について学び、職場でのストレスへの対処力を身につけ、健康で有意義な人生を送る一助とする。

授業計画

1 学期

- 1回 アイスブレイクを兼ねた講師の自己紹介、人間の身体と心の関係
- 2回 自律神経とストレスの関係、自律神経の整え方
- 3回 自己認識・評価、リフレーミング
- 4回 自分を大事にする、self-compassion
- 5回 自尊感情 (self-esteem)、自己主張 assertive
- 6回 対人感受性、心の理論、
- 7回 印象形成、対人認知とその歪み
- 8～10回 対人認知の歪み：ステレオタイプ、偏見、透明性錯覚、現状維持バイアスなど
- 11回 試験対策、
- 12回 試験、あるいはレポート、
- 13回 試験のフィードバック

2 学期

- 14～15回 コミュニケーションの概略、不適切表現
- 16回 内集団、内集団ひいき、集団圧力、同調、傍観者効果
- 17回 集団、集団浅慮、集団心理～群集心理、社会的手抜き

- 18~19回 リーダーシップ、チームで仕事をするについて
- 20~22回 成人教育、コーチングとフォローアップ
- 23回 ヘルスリテラシー、日本人の寿命と主な死因の現況、日本の健康政策
- 24~28回 生活習慣病の概要とその予防：がん、循環器疾患・高血圧、糖尿病・脂質異常、COPD
- 29回 飲酒、依存症、歯科疾患の概況と予防、
- 30~31回 睡眠、疲労、メンタルヘルス
- 32回 試験対策、
- 33回 試験、レポート、
- 34回 試験、レポートのフィードバック
- 35回 感情処理、ストレス、ストレス対処

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、問題についてのレポートと討論、グループワーク

きょうざい
教材

適切な教科書がないため、試験対策時に講義内容をまとめたプリントを配布する。

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験・レポート提出 90%、じゅぎょうたいど 授業態度10%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

自分自身の経験を考察するレポートを書く。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

動物生態学Ⅰ

(授業概要)

動物園の飼育者は、飼育対象の動物以外に餌生物や飼育環境下に生息する多くの動物の知識が求められる。生物の生存するために必要な行動は、種は違えども多くの種で共通する。本講義では昆虫からほ乳類、植物など幅広く紹介しながら、動物の生態を解説する。

科	生命科学科	教員	佐崎
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	35

目標

1学期

- 地球上に生息する生物の形態学的、生態学的、生理学的特徴を理解する

2学期

- 生物と環境、生物と生物同士の関係について理解
- 自然環境下での生態を理解したうえで、ペットを含めた飼育動物の生態を理解する
- 一部の学生が2年次に動物園コースに転コースをしても、授業についていけるようにする

授業計画

1学期

- 1回 動物生態学とは、生物の名前（和名、英名、地方名、学名）
- 2回 生物の分類①（分類の方法、階級、種、）
- 3回 生物の系統①（原核生物、原生生物とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 4回 生物の系統②（菌界、植物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 5回 生物の系統③（植物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 6回 生物の系統④（動物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 7回 生物の系統⑤（動物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 8回 生物の系統⑥（動物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 9回 生物の系統⑦（動物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 10回 生物の系統⑧（動物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 11回 ネコ科生物の進化について

- 12回 生態系とは（バイオスフィア実験からみる生態系）
- 13回 生物群集とは（食物連鎖、食物網）
- 14回 生物と環境①（作用：グロージャーの法則）
- 15回 前期試験
- 16回 前期試験の振り返り
- 17回 生物と環境②（作用：ベルクマンの法則）
- 18回 生物と環境③（作用：アレンの法則）
- 19回 生物と環境④（気温と生物の関係～動物～）
- 20回 生物と環境⑤（気温と生物の関係～ヒト～）
- 21回 生物と環境⑥（適応放散、収斂進化）
- 22回 生物と環境③（反作用）
- 23回 生物と環境④（相互作用：種内競争、種間競争、植物）
- 24回 生物と環境⑤（相互作用：植物、動物、干渉作用）
- 25回 生物と環境⑥（相互作用：動物、なわばりと行動圏）
- 26回 生物と環境⑦（相互作用：動物、なわばりと行動圏）
- 27回 本試験テスト対策①（過去問の振り返り、確認）
- 28回 本試験テスト対策②（過去問の振り返り、確認）
- 29回 本試験の解答と解説
- 30回 擬態と擬装について（種内競争：眼状紋、制服擬態）
- 31回 擬態と擬装について（偽物型擬態、攻撃擬態）
- 32回 擬態と擬装について（猛毒型擬態）
- 33回 異種間との関係（共生：相利共生、片利共生、片害）
- 34回 異種間との関係（中立、寄生）、生態系における異種間との種間関係の意義
- 35回 後期試験

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

具体例を用いて講義する

きょうざい 教材

生物図表、授業内で配布するプリント

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

授業だけではなく、身近な自然、生物に関心を持って観察する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

生物分類技能検定をもっている

動物関連法規Ⅰ

(授業概要)

狂犬病予防法、動物愛護法を中心に家庭で飼育または動物に関わる仕事に就く上で知っておくべき各種動物に関する法律について学ぶ。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35コマ

目標

1 学期

法律の仕組み、狂犬病予防法など動物に関わる以上は必須となる制度について理解できるようになる。

2 学期

動物愛護法を中心にペットビジネスや動物を飼育する際に知っておくべき事柄や制度について理解できるようになる。

授業計画

- 1回 授業概要紹介、自己紹介など
- 2回 犬猫飼養頭数、動物に関する社会の現状など
- 3回 狂犬病予防法 (1) 狂犬病とは その1
- 4回 狂犬病予防法 (2) 狂犬病とは その2
- 5回 狂犬病予防法 (3) 狂犬病清浄国・地域について
- 6回 狂犬病予防法 (4) 狂犬病予防法の概要 その1 法の概要、目的
- 7回 狂犬病予防法 (4) 狂犬病予防法の概要 その2 対象動物、輸入禁止動物 (感染症法)
- 8回 狂犬病予防法 (4) 狂犬病予防法の概要 その3 畜犬登録、狂犬病予防注射制度
- 9回 狂犬病予防法 (4) 狂犬病予防法の概要 その4 罰則など
- 10回 動物が亡くなった場合 (1) 動物や動物の死体の法的立場

- 11回 動物が亡くなった場合（2）廃棄物処理法と化製場法と動物
- 12回 前期試験
- 13回 前期試験返却・解説
- 14回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その1
- 15回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その2
- 16回 動物愛護法（1）法律の成立背景その1
- 17回 動物愛護法（2）法律の成立背景その2
- 18回 動物愛護法（3）目的
- 19回 動物愛護法（4）基本原則
- 20回 動物愛護法（5）動物の飼い主の責任 その1
- 21回 動物愛護法（6）動物の飼い主の責任 その2
- 22回 動物愛護法（7）動物虐待に対する罰則 その1
- 23回 動物愛護法（8）動物虐待に対する罰則 その2
- 24回 動物愛護法（9）動物取扱業の規制 その1
- 25回 動物愛護法（10）動物取扱業の規制 その2
- 26回 動物愛護法（11）動物取扱業の規制 その3
- 27回 後期試験
- 28回 後期試験返却、解説
- 29回 動物愛護法（12）動物取扱業の規制 その4
- 30回 動物愛護法（13）第2種動物取扱業、実験動物と産業動物、
- 31回 動物愛護法（14）特定動物 その1
- 32回 動物愛護法（15）特定動物 その2
- 33回 動物愛護法（16）マイクロチップの装着
- 34回 動物愛護法（17）自治体の役割
- 35回 1年総復習

授業の方法

講義

教材

テキスト、自作のプリント

評価の方法

期末試験 80%、平常点 20%（出席率、授業態度等）

授業外での学習方法

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

基礎健康管理学Ⅰ

(授業概要)

動物と関わる上で日常的な健康管理や予防について学び、実践できるようにする

か 科	生命科学科	きょういん 教員	田中
コース	スモールアニマルコース	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	1年	ねんかんたんいじかん 年間単位数	35

目標

1 学期

犬や猫の日常的な健康管理と予防について学び、正常時と異常時の違いを理解し、異常時に早く気付くことができる

2 学期

1学期に引き続き健康学と予防について学ぶ。またそれらを基礎とし、様々な疾患について理解する。

授業計画

1 学期

- 1回 授業について
- 2回 散歩・運動について
- 3回 排泄、排尿について
- 4回 全身のお手入れ、各疾患について①
- 5回 全身のお手入れ、各疾患について②
- 6回 全身のお手入れ、各疾患について③
- 7回 口腔衛生について①
- 8回 口腔衛生について②
- 9回 口腔衛生について③
- 10回 熱中症について①

- 11回 熱中症について②
- 12回 犬の登録
- 13回 ワクチンで予防できる病気（犬）
- 14回 ワクチンで予防できる病気（猫）
- 15回 避妊、去勢について①
- 16回 避妊、去勢について②

- 17回 前期復習
- 18回 前期試験
- 19回 前期試験返却
- 20回 犬糸状虫症の予防について
- 21回 外部寄生虫について①
- 22回 外部寄生虫について②
- 23回 外部寄生虫について③
- 24回 腸内寄生虫について①
- 25回 腸内寄生虫について②
- 26回 腸内寄生虫について③
- 27回 犬種によって多く見られる疾患について①
- 28回 犬種によって多く見られる疾患について②
- 29回 猫種によって多く見られる疾患について①
- 30回 猫種によって多く見られる疾患について②
- 31回 中毒について①
- 32回 後期復習
- 33回 後期試験
- 34回 試験返却
- 35回 中毒について②

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

講義、グループワーク

きょうざい 教材

プリント、教科書（コンパニオンアニマルの健康管理学）

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん じゅぎょうたいど
期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

授業用のプリントと教科書を各自見直し、纏める。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

基礎生物学

(授業概要)

高校の生物の復習を基本に、身近な生物や人体について、より深く実感を持って理解する。

科	生命科学科	教員	黒川 花
コース	ドッグスペシャリストコース スモールアニマルコース アクアスペシャリストコース ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

前期…細胞と遺伝の法則、主な臓器等について理解する。

後期…免疫の仕組み、生命の変遷、生物学の基本について学ぶ。

授業計画

1 学期

- 1回 細胞の構造(1)
- 2回 細胞の構造(2)
- 3回 生体を構成する物質
- 4回 タンパク質、酵素
- 5回 動物の組織と器官
- 6回 遺伝子とゲノム
- 7回 遺伝、メンデルの法則(1)
- 8回 遺伝、メンデルの法則(2)
- 9回 いろいろな遺伝
- 10回 ヒトと遺伝
- 11回 恒常性、体液、循環系
- 12回 循環、HB
- 13回 肝臓
- 14回 肝臓、腎臓
- 15回 まとめ
- 16回 前期試験腎臓
- 17回 前期試験返却、答合わせ

後期

- 18回 生体防御(1)
- 19回 生体防御(2)免疫と疾病
- 20回 ホルモン
- 21回 神経と感覚
- 22回 自律神経
- 23回 まとめ
- 24回 46億年(1)
- 25回 46億年(2)
- 26回 自習
- 27回 進化と形態
- 28回 分類
- 29回 学名
- 30回 系統樹。ドメイン
- 31回 原核生物界、原生生物界
- 32回 植物界。菌界
- 33回 動物界
- 34回 後期試験
- 35回 後期試験返却、答合わせ、生きるとは

授業の方法

教材と印刷物配布

教材

浜島書店『生物図表』

評価の方法

期末試験、80%、授業態度20%

授業外での学習方法

特になし。

実務経験と授業科目の関係

グルーミング概論・実習Ⅰ

(授業概要)

シャンプー犬種のグルーミングの意義を理解し、実際に犬の爪切り、バリカン、耳掃除、ブラッシング、シャンプー、ドライイング、足回りカットを行い、犬の保定の仕方や犬の扱い方の基礎を学ぶ。学生同士協力しスムーズに実習を行うことが出来るようにコミュニケーション能力を身に付ける。

科	生命科学科	教員	山崎 雅代
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35×7 コマ

目標

1 学期

チワワ・ダックスフンド等のシャンプー犬に実際にグルーミング（爪切り・耳掃除・バリカン・ブラッシング・シャンプー・ドライイング）を行う上で、犬に負担がかからないように仕上げる事が出来るようになるグルーミングを行いながら犬の扱い方・保定の仕方を身に付ける

2 学期

1頭の犬に対するグルーミングの一つ一つの作業を丁寧に行えるようにする
時間も意識しながら仕上がりを綺麗にする

授業計画

- 1回 道具配布・座学（グルーミングとは～コーミング）
- 2回 座学（耳掃除～道具による怪我）
- 3回 座学（ハサミについて～実習の諸注意）
- 4回 座学（実習室案内～リボン作成）
- 5回 モデルグルーミング
- 6回 初グルーミング実習（3人で1頭）
- 7回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 8回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 9回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 10回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 11回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 12回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 13回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 14回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 15回 グルーミング実習（2～3人で1頭）
- 16回 グルーミング実習（2～3人で1頭）
- 17回 グルーミング実習（2～3人で1頭）

- 18回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
19回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
20回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
21回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
22回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
23回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
24回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
25回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
26回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
27回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
28回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
29回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
30回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)
31回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)
32回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)
33回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)
34回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)
35回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

実技実習・講義

きょうざい
教材

グルーミング用品・講義プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

ハサミの動かし方を自宅で練習する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

栄養学

(授業概要)

五大栄養素の基礎的な知識、犬猫に必要な栄養素、エネルギー要求量、ライフステージ毎の栄養管理、ペットフードの基本的知識、様々な疾患時の療養食の特性など、動物の状態に適合した食事管理についての知識を身に着ける。

科	生命科学科	教員	橋本
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35コマ

目標

1学期

五大栄養素について理解をする。BCS やエネルギー要求量の計算方法を身に着ける

2学期

フードの歴史、種類、選び方、ライフステージ別のフードの違い、アレルギー、食べてはいけないもの、PB と NB の違いを理解し、接客できるようになる。

授業計画

- 1回 栄養学とは/栄養を摂取するとは
- 2回 五大栄養素 (たんぱく質)
- 3回 五大栄養素 (たんぱく質)
- 4回 五大栄養素 (炭水化物)
- 5回 五大栄養素 (炭水化物)
- 6回 五大栄養素 (脂質)
- 7回 五大栄養素 (脂質)
- 8回 五大栄養素 (ビタミン)
- 9回 五大栄養素 (ビタミン)
- 10回 五大栄養素 (ミネラル)
- 11回 五大栄養素 (ミネラル)
- 12回 ボディコンディションスコア (BCS)
- 13回 エネルギー要求量
- 14回 エネルギー要求量
- 15回 エネルギー要求量
- 16回 前期復習

- 17回 前期試験
- 18回 前期試験返却
- 19回 フードの歴史
- 20回 4D/フードの種類（ドライ・セミモイスト・ウェット）
- 21回 フードの種類（総合栄養食・栄養補助食・特別療法食）
- 22回 パッケージのみかた
- 23回 添加物・酸化防止剤・保存料
- 24回 ライフステージ（哺乳期・離乳期・成長期）
- 25回 ライフステージ（維持期・高齢期）
- 26回 ライフステージ（妊娠授乳期・治療期）
- 27回 食物アレルギー
- 28回 食物アレルギー
- 29回 犬猫が食べてはいけないもの
- 30回 犬猫が食べてはいけないもの
- 31回 PB と NB の違い
- 32回 後期復習
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返却
- 35回 振り返り

授業の方法

講義

教材

なし

評価の方法

期末試験 80%、平常点 20%（出席率、授業態度等）

授業外での学習方法

ペットショップでフードや用品を見る

実務経験と授業科目の関係

あり 〇

動物解剖生理学 I

(授業概要)

身体各部分の形態や機能を詳しく学ぶことで、身体の恒常性(ホメオスタシス)について理解し、動物の管理に関わる仕事に必要な知識を身につける。

科	生命科学科	教員	森 聖
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	35

目標

1学期

身体を形成する各系統や重要諸臓器の機能と形態に関し、主要な性状及び特質を十分に理解認識し、説明できるようになる。

2学期

同上

授業計画

1学期

- 1回 ガイダンス_体の各部位の名称
- 2回 愛玩動物飼養管理士 2級 3編 1章 体の基本の仕組み
- 3回 愛玩動物飼養管理士 2級 3編 2章 消化器
- 4回 愛玩動物飼養管理士 2級 3編 3章 泌尿器
- 5回 愛玩動物飼養管理士 2級 3編 4章 運動器
- 6回 愛玩動物飼養管理士 2級 3編 5章 皮膚と感覚器
- 7回 愛玩動物飼養管理士 1級 1編 1章 循環器
- 8回 愛玩動物飼養管理士 1級 1編 2章 呼吸
- 9回 愛玩動物飼養管理士 1級 1編 3章 内分泌とホルモン
- 10回 愛玩動物飼養管理士 1級 1編 4章 体内の情報伝達
- 11回 愛玩動物飼養管理士 1級 1編 5章 血液と造血器
- 12回 愛玩動物飼養管理士 2級 4編 1章 生殖器の形態と機能
- 13回 愛玩動物飼養管理士 2級 4編 4章 遺伝学概論
- 14回 **自主学習(登校不要)_宿題 免疫学**
- 15回 愛玩動物飼養管理士 2級 4編 2章 犬の繁殖生理
- 16回 前期試験。愛玩動物飼養管理士 2級 4編 3章 猫の繁殖生理
- 17回 前期試験 解説。愛玩動物飼養管理士 1級 1編 1章 循環器

2学期

- 18回 愛玩動物飼養管理士 1級 1編 2章 呼吸器
- 19回 愛玩動物飼養管理士 1級 1編 3章 内分泌とホルモン
- 20回 自主学习（登校不要）_宿題**
- 21回 愛玩動物飼養管理士 1級 1編 4章 体内の情報伝達
- 22回 愛玩動物飼養管理士 1級 1編 5章 血液と造血器
- 23回 愛玩動物飼養管理士 1級 2編 1章 動物の遺伝
- 24回 愛玩動物飼養管理士 1級 2編 2章 動物の繁殖生理
- 25回 骨格系_看護師教科書より
- 26回 筋肉系_看護師教科書より
- 27回 皮膚_看護師教科書より
- 28回 肝臓_看護師教科書より
- 29回 膵臓_看護師教科書より
- 30回 自主学习（登校不要）_宿題**
- 31回 口腔、胃腸_看護師教科書より
- 32回 腎臓学_看護師教科書より
- 33回 後期試験。 免疫学_看護師教科書より
- 34回 後期試験 解説。 神経系_看護師教科書より
- 35回 まとめ-1

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

座学

きょうざい
教材

自作テキスト

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

ノートを纏めなおし、授業前に教員に提示する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

獣医

生体管理概論実習(水槽)

(授業概要)

熱帯魚を中心とした基本的な熱帯魚の種類、飼育知識を学ぶ。

また、班ごとによる熱帯魚飼育において、飼育技術の習得だけでなく、協調性、責任能力を身に付ける。

科	生命科学科	教員	山内
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	70

目標

1 学期

水槽の立ち上げについて理解をする。

また熱帯魚の種類や生態的特徴を理解したうえで、熱帯魚の飼育方法を身に付ける

2 学期

熱帯魚を混泳する際の注意ポイントを理解し、病魚などが発生した際の治療方法及び予防方法を理解できるようにする。

授業計画

1 学期

- 1回 地下の利用方法 A
- 2回 地下の利用方法 B
- 3回 水槽飼育における基本的な用品 A
- 4回 水槽飼育における基本的な用品 B
- 5回 換水について A
- 6回 換水について B
- 7回 水槽の立ち上げについて A
- 8回 水槽の立ち上げについて B
- 9回 水合わせと温度合わせ A
- 10回 水合わせと温度合わせ B
- 11回 給餌方法と餌の種類について①A
- 12回 給餌方法と餌の種類について①B
- 13回 餌の種類について②A
- 14回 餌の種類について②B
- 15回 保温器具と保冷器具 A
- 16回 保温器具と保冷器具 B
- 17回 試験

18回 試験解説

2学期

19回 魚種(金魚)A

20回 魚種(金魚)B

21回 魚種(メダカ・カダヤシ)A

22回 魚種(メダカ・カダヤシ)B

23回 魚種(カラシン目)A

24回 魚種(カラシン目)B

25回 魚種(コイ・ドジョウ・シクリッド)A

26回 魚種(コイ・ドジョウ・シクリッド)B

27回 解説版作成 A

28回 解説版作成 B

29回 魚の病気と塩水浴について①A

30回 魚の病気と塩水浴について①B

31回 魚の病気と塩水浴について②A

32回 魚の病気と塩水浴について②B

33回 試験

34回 試験解説

35回 水槽のリセット

授業の方法

講義、実演、実習

教材

はじめての熱帯魚飼育

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

担当水槽における通常メンテナンス

実務経験と授業科目の関係

あり

コンパニオンドッグ I

(授業概要)

犬に関わる職業において必要な犬種ごとの特徴や対応を学び、犬を理解するとともに、将来の仕事において、お客様への情報提供やサービス、接客にて役立つ知識として学ぶ。また、実習において基礎知識を応用し、実際に犬と関わるうえで犬の扱い方、対応を実践としてつなげる。

科	生命科学科	教員	稲岡 愛
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	35

目標

1 学期

主要犬種の J K C でのグループ分け、犬種の外観、性格、歴史、飼育環境、健康管理、行動特性などを学び外観を見て犬種名、犬種の特徴を説明できるようになる

2 学期

主要以外の人気犬種の J K C でのグループ分け、犬種の外観、性格、歴史、飼育環境、健康管理、行動特性などを学び、外観を見て犬種名、犬種の特徴を説明できるようになる

授業計画

- 1回 授業の説明、グループ分け①
- 2回 グループ分け②
- 3回 グループ分け③
- 4回 グループ分け④
- 5回 グループ分け⑤
- 6回 人気犬種 2 種 (プードルなど)
- 7回 人気犬種 2 種 (ダックスフンドなど)
- 8回 人気犬種 2 種 (柴など)
- 9回 人気犬種 2 種 (M シュナウザーなど)
- 10回 人気犬種 2 種 (マルチーズなど)
- 11回 人気犬種 2~3 種 (フレンチブルドッグなど)
- 12回 人気犬種 2 種 (パグなど)
- 13回 人気犬種 2~3 種 (L レトリバーなど)
- 14回 自主学習日 (課題)
- 15回 試験対策

- 16回 (前期試験期間)
- 17回 (前期試験期間)
- 18回 人気犬種 2～3種 (ブルドッグなど)
- 19回 人気犬種 2～3種 (シベリアン・ハスキーなど)
- 20回 人気犬種 2～3種 (ドーベルマンなど)
- 21回 ペットを迎え入れることについて
- 22回 人気犬種 2～3種 (Gシェパードなど)
- 23回 人気犬種 2～3種 (サモエドなど)
- 24回 人気犬種 2～3種 (チャウ・チャウなど)
- 25回 人気犬種 2～3種 (ニューファンドランドなど)
- 26回 犬との生活
- 27回 人気犬種 2～3種 (Mブル・テリアなど)
- 28回 人気犬種 2～3種 (アイリッシュ・セターなど)
- 29回 人気犬種 2～3種 (ケアン・テリアなど)
- 30回 人気犬種 2～3種 (Eスプリンガー・スパニエルなど)
- 31回 試験対策
- 32回 (後期試験期間)
- 33回 (後期試験期間)
- 34回 就職先で犬種知識を生かすために
- 35回 自主学習日 (課題)

授業の方法

講義

教材

まるごとわかる犬種図鑑

評価の方法

期末試験 80%、平常点 20% (出席率、授業態度等)

授業外での学習方法

授業前に事前学習として対象の犬種の様々な画像を見ておく

日常生活で犬を見たら犬種名を言えるようにする (わからない場合は調べるもしくは飼い主に確認)

実務経験と授業科目の関係

あり

公衆衛生学 1

(授業概要)

近年環境破壊等の人間活動を原因とする新興感染症・再興感染症の台頭が地球規模で問題となっており、これらの多くが人獣共通感染症である。人、動物、環境の健康は一体として守るべきもの（ワンヘルス）との考え方を基本として、人と動物の健康保持・推進のため人獣共通感染症について学習する。さらに、動物由来の食品等が原因となることが多い食中毒についても学習する。

科	生命科学科	教員	花木
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

1 学期

公衆衛生の基本となる国民衛生の動向、感染症の基本的知識（疫学、病原体、感染、防疫等）について学ぶ。
人獣共通感染症のうち、細菌を原因とするものについて学ぶ。

2 学期

人獣共通感染症のうち、寄生虫、ウイルス、真菌を原因とするものについて学ぶ。
感染症を媒介することが多い衛生害虫（蚊、ダニ、ノミ等）について学ぶ。
食中毒及び食品衛生法の概要について学ぶ。

授業計画

1 学期

- 1回 公衆衛生とは
- 2回 国民衛生の動向
- 3回 疫学と疾病予防
- 4回 感染症の基礎 1（病原体）
- 5回 感染症の基礎 2（感染、予防、免疫）
- 6回 感染症の基礎 3（バイオハザード等）
- 7回 人獣共通感染症
- 8回 細菌性人獣共通感染症 1
- 9回 細菌性人獣共通感染症 2
- 10回 細菌性人獣共通感染症 3
- 11回 細菌性人獣共通感染症 4
- 12回 細菌性人獣共通感染症 5
- 13回 寄生虫性人獣共通感染症 1
- 14回 寄生虫性人獣共通感染症 2
- 15回 前期総括

- 16回 前期試験
- 17回 寄生虫性人獣共通感染症 3
- 18回 寄生虫性人獣共通感染症 4
- 19回 寄生虫性人獣共通感染症 5
- 20回 ウイルス性人獣共通感染症 1
- 21回 ウイルス性人獣共通感染症 2
- 22回 ウイルス性人獣共通感染症 3
- 23回 ウイルス性人獣共通感染症 4
- 24回 ウイルス性人獣共通感染症 5
- 25回 狂犬病
- 26回 真菌性人獣共通感染症
- 27回 公衆衛生上重要な衛生昆虫
- 28回 新興感染症・再興感染症 1
- 29回 新興感染症・再興感染症 2
- 30回 食品衛生法の概要
- 31回 食中毒 1
- 32回 食中毒 2
- 33回 食中毒 3
- 34回 後期試験
- 35回 後期試験返却 / 公衆衛生に関する現状と課題

授業の方法

自作のテキスト、パワーポイントによる講義

教材

なし

評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%

授業外での学習方法

参考書、厚生労働省等公的機関のウェブサイト等により知識や最新情報を習得する

実務経験と授業科目の関係

あり（公衆衛生獣医師として保健所等で公衆衛生行政に従事）

飼育用品概論 I

(授業概要)

ペットショップ・アニマルカフェなどの施設において生体管理をする上で使用する機材また道具の基本的な使用方法を学習する。また、メーカーごとの特徴や用品のアレンジ方法なども理解する。

科	生命科学科	教員	山内
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

1学期

ペットショップで取り扱われていることが多い小動物の飼育方法や機材の使用方を理解し、校内の生体管理において実践できるようにする。

2学期

生体ごとの望ましいレイアウト方法を理解し、メーカーごとの特徴を理解する。

授業計画

1学期

- 1回 アイスブレイク
- 2回 小動物とはどんな生き物か（草食性）
- 3回 小動物とはどんな生き物か（肉食・雑食性）
- 4回 用品解説：ケージ①
- 5回 用品解説：ケージ②
- 6回 用品解説：隠れ家、寝床
- 7回 用品解説：トイレ
- 8回 用品解説：サークル、運動器具
- 9回 用品解説：遊び道具①
- 10回 用品解説：遊び道具②
- 11回 用品解説：床材
- 12回 用品解説：保冷器具
- 13回 用品解説：保温器具
- 14回 用品解説：メンテナンス用品①
- 15回 用品解説：メンテナンス用品②
- 16回 試験対策
- 17回 前期試験
- 18回 試験返却

2学期

- 19回 用品解説：給水器、餌皿
- 20回 用品解説：牧草
- 21回 用品解説：フード（草食性）
- 22回 用品解説：フード（肉食・雑食性）
- 23回 用品解説：おやつ
- 24回 用品解説：副食①
- 25回 用品解説：副食②
- 26回 小動物の販売形態について
- 27回 系統とカラーについて①
- 28回 系統とカラーについて②
- 29回 系統とカラーについて③
- 30回 ペット保険について
- 31回 小動物の病気と診察
- 32回 ペット業界が抱える課題点
- 33回 試験対策
- 34回 後期試験
- 35回 試験返却

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

座学

きょうざい
教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

生体管理実習での生体管理

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

陸上実習

(授業概要)

様々な運動競技を通して、校外実習や就職時の際に必要な基礎体力の維持・向上を図る。
また、チーム戦を通じて主体性、協調性、積極性も高める。

科	生命科学科	教員	高橋 萌夢
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	×
対象年次	1年	年間単位数	35

目標

1 学期

- ・ 点呼(時間厳守)→ラジオ体操→外周の流れを理解し自主的に動けるようになる。
- ・ 安全に基礎体力を身につける。
- ・ 自己管理ができるようになる。

2 学期

- ・ スポーツ大会での目標を全員一致させそれに向けて動くことができる。
- ・ 安全に基礎体力を身につける。

授業計画

- 1回 自己紹介 ラジオ体操・外周ランニングオリエンテーション
- 2回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 3回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 4回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 5回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 6回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 7回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 8回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 9回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 10回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 11回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 12回 前期期末試験(筆記) 実施
- 13回 前期期末試験(筆記) 返却
- 14回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 15回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 16回 外周ラン ラジオ体操 スポーツ大会練習

17回	外周ラン	ラジオ体操	スポーツ大会練習
18回	外周ラン	ラジオ体操	スポーツ大会練習
19回	外周ラン	ラジオ体操	スポーツ大会練習
20回	外周ラン	ラジオ体操	スポーツ大会練習
21回	外周ラン	ラジオ体操	スポーツ大会練習
22回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
23回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
24回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
25回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
26回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
27回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
28回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
29回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
30回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
31回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
32回	後期期末試験(筆記) 実施		
33回	後期期末試験(筆記) 返却		
34回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
35回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)

授業の方法

実習

教材

なし

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

自宅でのストレス及び筋力トレーニング

実務経験と授業科目の関係

なし